

2014年2月3日

博報堂、“教育”をテーマに対話し、新たな事業モデルを創出する 新プロジェクト「未来教育会議」を発足、参加企業を募集開始

複雑な社会問題を関係するステークホルダー全体でアプローチする
ソーシャル・イノベーション・プログラム『bemo』第二弾※1

株式会社博報堂（東京都港区、代表取締役社長：戸田裕一）のブランディング専門組織「博報堂ブランドデザイン」は、未来の社会と子ども、教育のあり方を多様なステークホルダーと共に考え、新たな価値を創造するプロジェクト「未来教育会議」を発足いたしました。2014年3月の活動開始に向け、本日より参加企業・団体を募集いたします。

博報堂は、複雑な社会問題をテーマに、ステークホルダーと共にソーシャル・イノベーションを創出するプログラム『bemo』を2011年8月に発表いたしました。第一弾はフードロス（＝食品ロス）をテーマにした「フードロス・チャレンジ・プロジェクト※2」を2012年12月に立ち上げ、参加企業・団体と共に新たな事業モデルを開発、実行しています。

そして、今回は第二弾として「教育」をテーマにしたプロジェクトを開始いたします。生活者、企業、学校、地域社会、NPO、行政などと共に、一組織・一企業ではアプローチが難しい、システム全体を改善するアイデアを生み出していく「共創」のプロセスが最大の特長です。主な活動内容としては①キックオフ・シンポジウム（現状とビジョンの共有）②スタディツアー（先進的な取り組みと課題の視察）③アクションプランニング（事業モデルのプロトタイプ）の3つのプログラムを実施する予定です。

このプロジェクトは、博報堂の専門コンサルタントチームが持つネットワークや、マーケティングの知見を提供しながら、参加企業・団体と共に新たな市場やビジネスモデルを創出してまいります。そのため、参加企業・団体には当プロジェクトを「イノベーション人材育成の場」としてもご活用いただけます。

教育界に幅広い知見とネットワークを持つ熊平美香氏（クマヒラセキュリティ財団・代表理事）を代表に、教育プログラムの開発実績を持つ株式会社教育と探求社、システム・シンキングの知見を持つ慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所が実行委員会メンバーとなり、博報堂 bemo チームが事務局チームとして「共創」のプロセスをサポートいたします。また、今後はイベントやアクションごとに NPO・NGO や行政・官公庁などの団体・組織とも協業する予定です。

※1 「bemo（ベモ）のニュースリリース（2011年8月10日）

<http://www.hakuhodo.co.jp/archives/newsrelease/579>

※2 「フードロス・チャレンジ・プロジェクト」（2012年12月10日）

<http://www.hakuhodo.co.jp/archives/newsrelease/8248>



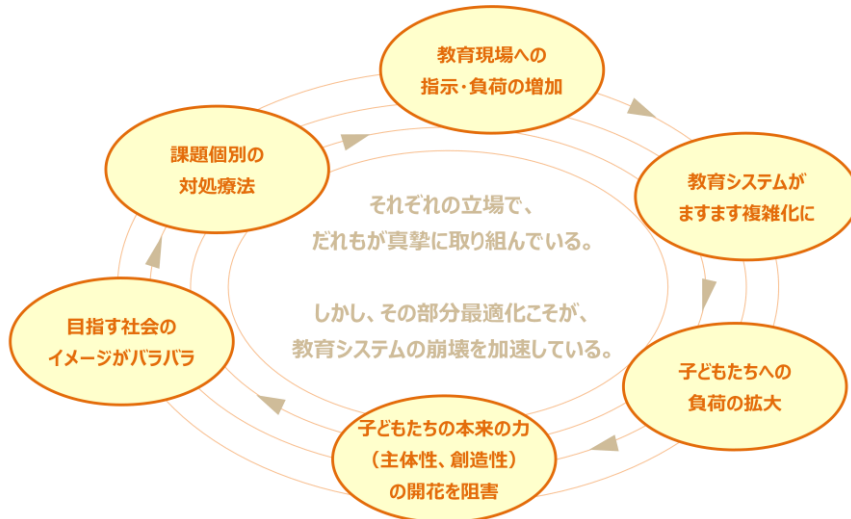
報道関係者様からのお問い合わせ：博報堂 広報室 西本（TEL:03-6441-6161）

当プロジェクトに関するお問い合わせ：博報堂ブランドデザイン 原（TEL:03-6441-8646）

参考資料

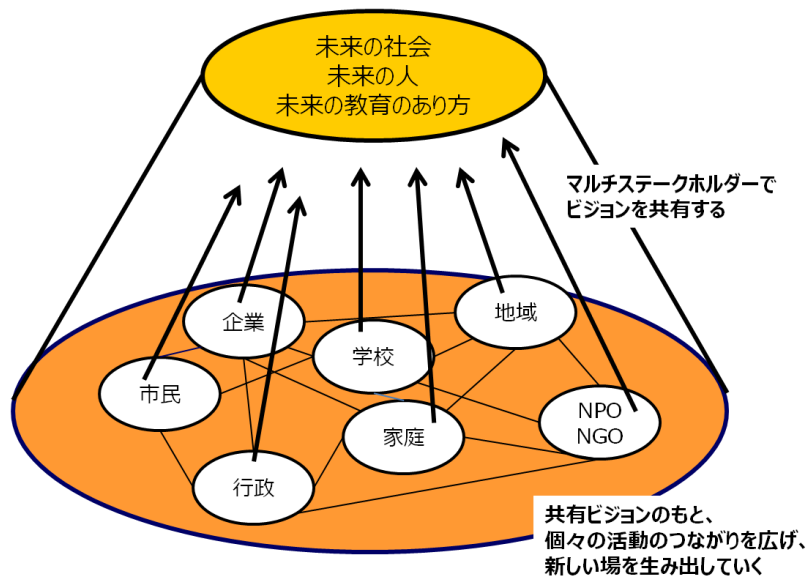
■教育の課題とは？(仮説)

教育には、学校だけではなく家庭、地域、行政をはじめとする多くのステークホルダーが関わっているため、システム全体を俯瞰しながら自らの組織・個人を変革することが困難であり、そこが大きな課題の一つと考えられます。そのため、それぞれが役割を真摯に取り組んでいる結果として、必ずしも全体最適には結び付かず、子どもたちの成長を阻んでいる、というジレンマを生んでいる可能性が考えられます。



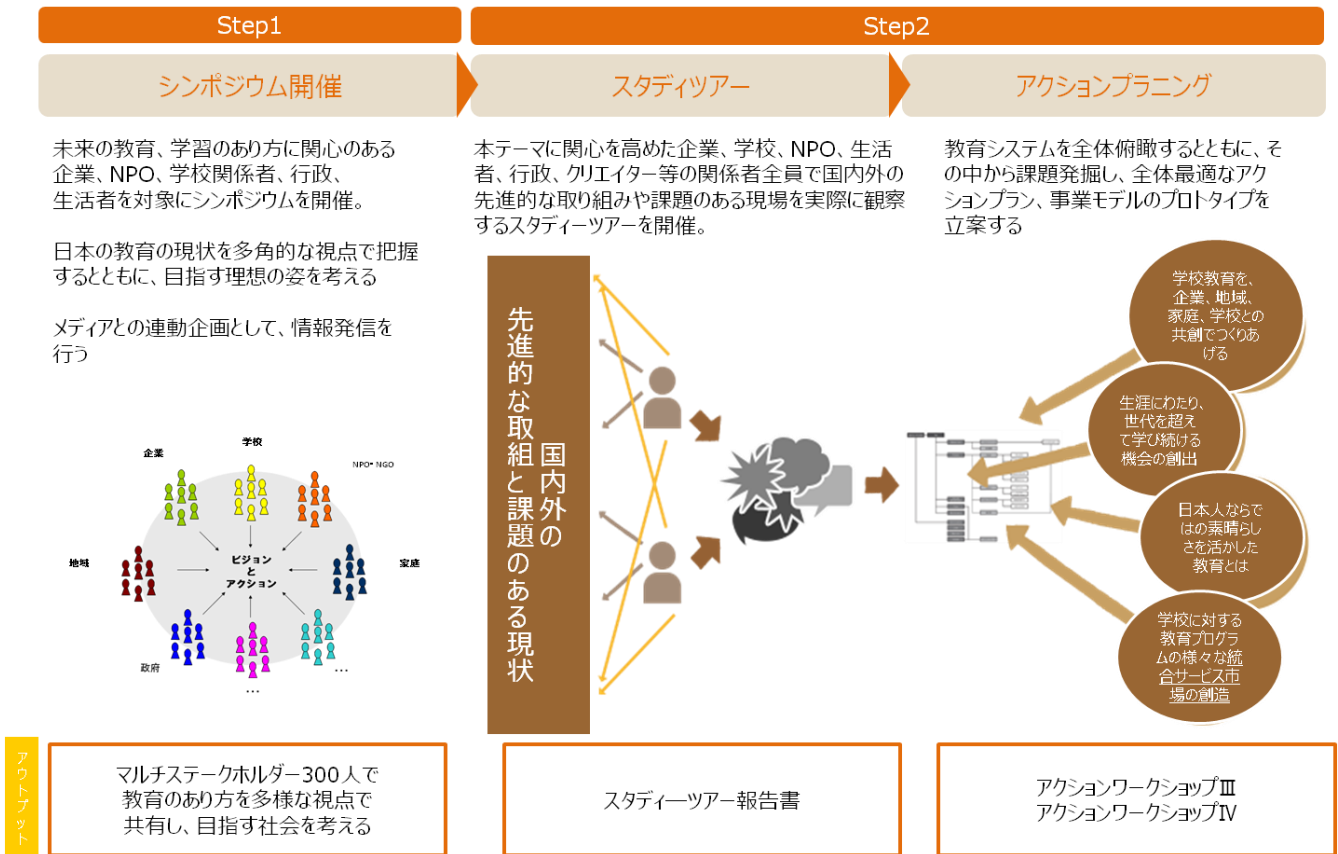
■解決に向けたアプローチ

「未来教育会議」は、教育に関係する多様なステークホルダーによって、新しい時代と新しい教育の世界観を共有しながら新しい事業モデルを生み出していきます。受験を変える、英語教育が必要・・・という視点ではなく、時代が求める教育の根底にある世界観に触れ、教育全体を俯瞰しながら、子どものために必要な「未来の社会」「未来の人」「未来の教育のあり方」について考えてまいります。



■未来教育会議の活動構想(2014年3月~2015年3月末)

さまざまな参加者（ステークホルダー）がひとつのチームとなって、対話を重ねることで、それまで見えていなかったシステムの“全体”に視野を広げるプロセスを重視します。2014年3月~2015年3月の第一期は以下の活動を予定しています。
 ※2015年度以降は事業モデルのプロトタイプの精緻化や、モデルケースとして拡散するための施策を展開する予定です。



■「未来教育会議」代表 熊平美香氏プロフィール

熊平美香 （一般財団法人クマヒラセキュリティ財団 代表理事）

ハーバード MBA 修了後、銀行の金庫扉を製造する家業 熊平製作所の新規事業開発に従事。藤田商店にて、日本マクドナルド創業者藤田田会長と共に新規事業を立ち上げた後、1997年に独立。株式会社エイテッククマヒラ 代表取締役就任。GE リーダーシップ開発センター@クロトビルにおける『学習する組織』のリーダーシップ開発および変革推進プロセスを日本において展開。TSUTAYAの親会社 CCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）社外取締役を経て、現在は、「戦略を実現する強力な組織」に必要な学習デザインを中心にコンサルティング・サービスを提供。

「学習 x チーム x リーダーシップ」という3つの力を強化し、イノベーションと変化を起こす組織に貢献する。2004年より、青山ビジネススクール MBAで講義を担当。現在はアントレプレナーシップとソーシャルアントレプレナーシップの講義を行う。

2010年より、教育問題の解決に貢献するという新たなミッションを掲げ、教員養成を行う日本教育大学院大学学長に就任。2011年にはティーチフォー日本の理事に就任し、組織開発や研修を担当。2013年より、クマヒラセキュリティ財団では、オランダのシチズンシップ教育ピースフルスクールプログラムを展開。

わかりやすいプロジェクト 国会事故調編では、対話を通して教育と社会を繋ぐ市民活動を立ち上げる。

著書 『チーム・ダーウィン「学習する組織」だけが生き残る』英治出版

■博報堂「bemo」について

マルチステークホルダー乗り合い型 価値創造プログラム



『bemo (ベモ)』とは、一組織・一企業単位では解決できない社会課題に対し、関係するマルチステークホルダーが“乗り合い型”のチームを結成し共創的に取り組むことで、システム全体を改善しながら、それぞれのステークホルダーにも利する事業モデルを生みだそうとするプロジェクト手法です。各関係者が集い、社会課題を“システム”として捉え、全体視点で共有することで、一段視座の高い解決策やアイデアの創出を可能にしていきます。

食、環境問題、医療、教育など、問題が複雑で解決が難しいが、解決しなければ社会全体に影響するようなテーマに適しています。ソーシャルテーマに関する豊富な実践を持つ博報堂社内のコンサルタントチームが、「競争から共創」を掲げ、新しい時代の価値創造を目的に活動しています。

(チームリーダー：兎洞武揚 うどう・たけあき 博報堂ブランドデザイン 組織変革ファシリテーター)

※詳細は2011年8月10日付ニュースリリースを参照ください。

<http://www.hakuhodo.co.jp/uploads/2011/08/20110810.pdf>

■Step1「未来教育会議」キックオフ・シンポジウムのご案内

未来教育会議のスタート第一弾として、キックオフシンポジウムを下記概要で開催します。(こちらは、ご参加企業様以外にもご参加いただけます。)

【未来教育会議キックオフシンポジウム】 テーマ：「子どもたちの力」

○日時：2014年3月16日(日)

第一部シンポジウム：10:00～15:30

第二部ワークショップ：16:30～18:00

○場所：東洋大学

○定員：300名～500名

○参加費：一般：2,000円 NPO・NGO、学生：1,000円

(上記参加費は、未来教育会議プロジェクトご参加企業様以外のご参加の場合に承ります。上記には昼食代500円含まれます。)

○プログラム ※当プログラムは現時点での仮案です。今後変更の可能性がありますのでご了承ください。

【第一部シンポジウム：10:00～15:30】

有識者によるキーノートスピーチや先進的な事例のご紹介など

【第二部ワークショップ：16:00-17:30】

ワールドカフェ等、全員参加による対話のワークショップを予定

テーマ：私たちが目指す未来の社会とは

17:30-18:00

今後の未来教育会議のご案内

詳細は未来教育会議のウェブサイトを参照ください。

<http://miraiikk.jp/>